

# 令和4年度

## 登録左官基幹技能者認定試験問題 (60分)

北陸ブロック

受講番号		氏名	
------	--	----	--

1. 試験時間 60分

2. 問題数 25題（四肢択一法）

### 3. 注意事項

- (1) 試験開始の合図があるまで、この問題冊子はあけないでください。
- (2) 受講番号と氏名は、問題用紙および解答用紙のそれぞれの所定の欄に必ず記入してください。
- (3) 本冊子は、表紙を含めて10頁です。次に、問題数を確かめてください。落丁、乱丁、印刷不鮮明の箇所などがあった場合には、黙って手を上げて申し出てください。
- (4) 試験開始の合図で始めてください。
- (5) 解答の方法は、次のとおりです。
  - ①正解と思うものを、1～4の番号の中から1つだけ選んで、解答用紙の解答欄にその番号を、黒の鉛筆またはシャープペンシルで記入してください。
  - ②解答を訂正する場合は、訂正する解答を、プラスチック消しゴムできれいに消した後、新しい解答を記入してください。  
消し方が不十分な場合は、2つ以上解答したこととなり正解としません。
  - ③受験番号および選択した番号を正しく記入していないものは、採点せず全問題を0点とすることがあります。
- (6) 電子式卓上計算機、携帯電話の計算機能その他これと同等の機能を有するものは、使用してはいけません。
- (7) 試験中、質問があるときは黙って手を上げてください。ただし、試験問題の内容、漢字の読み方等に関する質問にはお答えできません。
- (8) 答案ができあがったら、監督者の指示に従って提出してください。ただし、試験開始30分以内の場合は、退出できないので、静かに着席していてください。

一般社団法人 日本左官業組合連合会

以下の問題をよく読み、解答用紙に正解番号を記入しなさい。

**問題 1** 登録基幹技能者に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 登録基幹技能者は、現場における高度なマネジメント業務を担う。
2. 登録基幹技能者は、現場における元請の計画に参画する。
3. 登録基幹技能者は、現場における元請の管理業務に参画する。
4. 登録基幹技能者は、現場における仲の良い他職種の技能者の補佐をする。

**問題 2** 建設キャリアアップシステムに関して、最も不適当なものはどれか。

1. 個々の技能者の能力を評価することが可能である。
2. 職種ごとに能力評価基準が策定された。
3. 技能者に対して 5 段階の客観的な技能レベルが付与された。
4. 登録基幹技能者は、能力評価基準の最高位(レベル4)要件の資格者である。

**問題 3** 登録基幹技能者の活用に関して最も不適当なものはどれか。

1. 登録基幹技能者は、公共工事における総合評価落札方式においても評価・活用されている。
2. 国土交通省における総合評価落札方式においては、すべての地方整備局等で評価・活用されている。
3. 都道府県等の地方自治体においては、令和2年度末現在で 29 都道府県・政令市で評価・活用されている。
4. 日本左官業組合連合会等の一般社団法人における総合評価落札方式においても導入されている。

**問題 4** 登録基幹技能者に求められる能力に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 施工技術及び施工管理に係る基本的知識と優れた技能を有し、かつ、リーダー役として、部下を直接指揮、監督することができる。
2. 他職種との折衝、調整を行い、工事の円滑化を図るとともに、部下の指導、教育を計画的に行うことができる。
3. 技術提案等において部下の参加を少なくし、個人の考えを尊重し、部下の負担を減らすことができる。
4. 目標通りに工事を完成させることができる。

**問題 5** 登録基幹技能者に必要な資質に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 統率力がある。
2. 人を率いるには、人間愛が必要である。
3. 厳しさと怒りがなくては人はついてこない。
4. 厳しさの中でも暖かい配慮こそが肝要である。

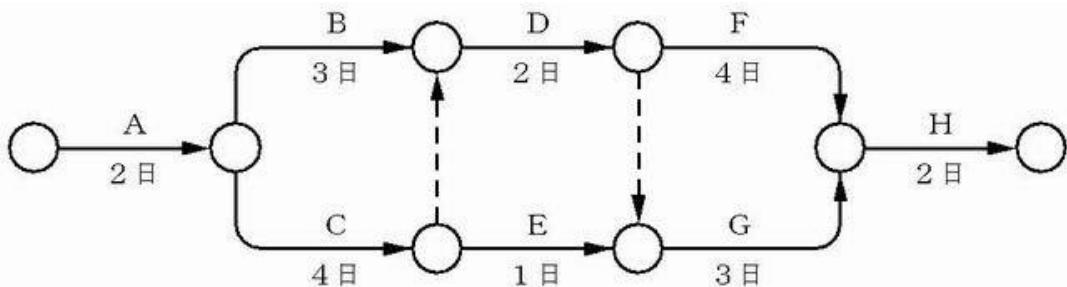
**問題 6** 登録基幹技能者としての法令の遵守に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 建設工事の発注者は、その注文した工事を施工するために通常必要と認められる期間に比べて著しく短い期間を工期としてはならない。
2. 元請負人は、下請代金のうち労務費に相当する部分については、現金で支払うよう適切な配慮をしなければならない。
3. 監理技術者を専任で置かなければならない建設工事について、一定の要件を満たす者を監理技術者の補佐として専任で置く場合には、監理技術者の専任を要しないこととなった。
4. 特定の専門工事について、一定の要件を満たす場合においても、元請負人が現場に専任で置く主任技術者および下請負人が置くべき主任技術者の両方を置かなければならぬ。

**問題 7** 登録基幹技能者が担うべき指導・教育、自己啓発に関して、最も不適当なものはどれか。

1. OJTは、仕事そのものであるという認識を持つことが大切である。
2. OJTは、上司の能力レベルから目標を定める。
3. OJTは、部下の能力レベルに合わせた目標を立てる
4. OJTは、往々にして育成ペースを急ぎすぎることがあるので注意する。

**問題 8** 次の工程表に関して、最も不適当なものはどれか。



1. この工程表のクリティカルパスは、A-C-D-F-Hである。
2. この工程表の工期は、14 日である。
3. 作業 E のトータルフロート(余裕日数)は、2 日である。
4. 作業 E の最早開始時刻(EST)は、6 日である。

**問題 9** 新しい技術に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 3次元座標を計測する測量機器にレーザーレベルがある。
2. 3次元座標を計測することのできる GNSS(GPS)がある。
3. 3次元形状をデジタルデータとして大量の画像から3次元形状を復元する写真測量がある。
4. レーザーにより3次元形状を点群データとして記録するレーザースキナ等がある。

**問題 10** 建設業法に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 追加工事等の着工前に書面による下請負契約変更が必要である。
2. 追加工事等の内容が直ちに確定できない場合の対応では、契約変更等の手続については、追加工事等の全体数量等の内容が確定した時点で遅滞なく行う。
3. 元請負人が合理的な理由なく下請工事の契約変更を行わない場合は建設業法違反である。
4. 追加工事等の費用を下請負人に負担させることができる。

**問題 11** 塗り壁の故障の原因、内容、是正措置とそれぞれの組み合わせに関して、最も不適当なものはどれか。

1. 下地の吸水が激しいときは、吸水調整材を水で4～5倍にして下地に塗布した。
2. エフロレッセンスは、しみ・はく離を発生するので、除去することが必要である。
3. 上塗りで、ひび割れや剥離が発生するのは、塗り層で下塗りほど貧調合したことによる。
4. 未乾燥のセメントモルタルにせっこうプラスターを塗り付けると、はく離やひび割れが発生するので、セメントモルタルを十分に乾燥させてから塗り付ける。

**問題 12** 左官用語の解説に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 「レイタンス」とは、コンクリート打設の際、浮き水と一緒に浮上したセメント中または骨材中の微粒子からなる薄い泥状物の層のことである。
2. 「硬化不良」とはコンクリートが予定の日数を経て、充分に硬化する筈であるのに、全く硬化せず、壁や床の躯体としての性能の硬さに至らないことである。
3. 「ジャンカ」とは、型枠解体後、硬化したコンクリートの表面に見られる、空隙の多い不均質な砂利の露出、凝集部分のことである。
4. 「ワーカビリティ」とはコンクリート打ち込み継続中、前の層のコンクリートを打ち込んでから相当時間経過した後に、次のコンクリートが打ち継がれたときに生ずる不連続面のことである。

**問題 13** 現場打ちコンクリート下地のチェックに関して最も不適当なものはどれか。

1. 下塗りに先立ち、コンクリートが、ひび割れ・ジャンカ・過度の凹凸などがある場合は、工事監理者に報告し、すぐに是正作業に取りかかる。
2. 開口部、ひび割れ誘発目地、構造スリットなどの位置や形状について施工図との適合性を確認する。
3. コンクリート表面は、せき板の残材や過度のはく離剤付着などの接着上有害な残存物のない状態を確認する。
4. コンクリート表面は、はく離防止のための目荒らしまだ清掃・脆弱層の除去などが行われていることを確認する。

**問題 14** JIS A 6909(建築用仕上塗材)の仕上塗材の種類と呼び名の組み合わせに関して、最も不適当なものはどれか。

1. 内装厚塗材Gは、内装せっこう系厚付け仕上塗材のことである。
2. 内装薄塗材Cは、内装消石灰・ドロマイトイクスター系薄付け仕上塗材のことである。
3. 外装薄塗材Eは、外装合成樹脂エマルション系薄付け仕上塗材のことである。
4. 内装薄塗材Wは、内装水溶性樹脂系薄付け仕上塗材のことである。

**問題 15** 単層下地通気構法に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 防水紙は、通気層より躯体側で、透湿防水シートとする。
2. ステープルは、M 線以上の線径で、脚長を 25mm 以上のものとする。
3. ラスは、質量 800g/m<sup>2</sup>以上の防水紙付きリブ系ラス、または同等以上とする。
4. 防水紙は、鎧張りで、継ぎ目部は幅 90mm 以上重ねる。

問題 16 コンクリート表面の処理後の表面状態と処理方法に関して最も不適当なものはどれか。

1.	高压水洗浄の例(吐出圧 50N/mm <sup>2</sup> )	
2.	超高压水洗浄の例(吐出圧 150N/mm <sup>2</sup> )	
3.	専用シートによる起毛処理	
4.	カップサンダー掛け	

**問題 17** 左官用語の解説に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 「セルフレベリング」とは、流しこむだけで平坦になる性質をいう。
2. 「シーリング材料」は長時間安定して水密や気密効果があるものをいう。
3. 「グラウト」とは、作業性、施工軟度をいう。
4. 「スラリー」とは、液体中に細かい固体粒子が濃厚に混合され、かつ安定の状態にあるものをいう。

**問題 18** 左官用語の解説に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 「つけ送り」とは、躯体の補修工事の一部としてコンクリート・コンクリートブロック下地などで下塗りに先立ち、仕上げ厚を均等にするため、セメントモルタルなどで予め不陸を調整することである。
2. 「糊捏ね」とは、砂粒状の仕上塗材にのりまたは合成樹脂を混合した仕上塗材の一種のことである。
3. 「結合材(けつごうざい)」とは、セメント・プラスター・消石灰・壁土・合成樹脂など、他の左官材料を結合硬化させるもののことである。
4. 「とろ」とはドロドロのセメントや石灰に砂等を加えない水練りしペースト状にしたもの。

**問題 19** 施工計画における事前調査に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 建設工事は、自然を相手に取り組むものであることから、現場の自然現象や敷地条件、周辺の状況など、十分に事前調査を実施する。
2. 事前調査は、契約関係書類の精査から行い、契約書および設計図書より、工事の目的、要求される品質、工期、契約金額について十分理解しておく。
3. 主要工種は、施工法や施工手順について技術面および経済性の比較検討を行う。
4. 工事に着手する前には、契約内容を検討し、もし問題点があったならば発注者と打合せを行い、打合わせ内容を書面にて取り交わしておく。

**問題 20** 建設副産物に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 資源有効利用促進法に規定された指定副産物は、アスファルト・コンクリート塊、コンクリート塊、建設発生木材、建設発生土である。
2. 建設リサイクル法に規定された特定建設資材廃棄物は、アスファルト・コンクリート塊、コンクリート塊、建設発生木材である。
3. 建設工事に伴って廃棄されるコンクリート塊、アスファルト・コンクリート塊、建設発生木材の建設廃棄物は、産業廃棄物全体の排出量及び最終処分量の約2割を占めている。
4. 建設副産物とは、建設工事に伴い副次的に得られた物品であり、工事現場から排出される再利用の可能性がある。

**問題 21** 資材管理計画における揚重計画に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 揚重機器の効率を考えて計画する。
2. 揚重機器の荷重制限、寸法制限を把握し、資材の大きさ、重量、数量等から荷姿、梱包方法を検討する。
3. 資材の保管場所は、その工種の作業場にできるだけ近い場所に設置する。
4. 資材によってどの揚重機器が最適か検討する。

**問題 22** ゼネコンの原価管理に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 積算のプロセスは、設計図書に基づき建設物を構成する各部分の数量の計測・計算を行う「数量拾い」と、数量に対して単価を入れる「値入れ」とに分かれる。
2. 数量の拾い方については、誰がやっても同じ結果となるように、「数量積算基準」でそのルールを定めている。
3. 「共通仮設費」とは、各工事種目に共通の仮設に要する費用であり、現場事務所や仮囲いにかかる費用やさまざまな準備費を指す。
4. 消費税等相当額を除いた工事価格は、建設工事、土木工事共に「直接工事費」+「共通費」で構成されている。

**問題 23** わが国建設業における労働災害の現状について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

1. 労働災害とは、労働者が就業中に負傷、疾病、障害、死亡する災害であり、通勤中の災害は含まれない。
2. 近年の労働災害減少の主要因の一つは、労働安全衛生法等の法規の整備である。
3. 死亡災害を事故の型別は、建設工事全体では墜落事故が約 44%と最も多い。
4. 建設業の安全対策が難しい理由の一つは、作業内容が日々変化するため慣れによる安全効果が期待しにくいことが挙げられる。

**問題 24** 各種労働災害防止について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

1. 高さが 2m 以上の所での作業を行う場合、基本的には作業床を設置する。
2. 居ながらリフォーム工事では、多くの場合、電気やガスが使用できるので安全な作業ができる。
3. 解体工事では、石綿による健康障害防止対策を検討する必要がある。
4. 熱中症予防対策として、WBGT(暑さ指数)を測定することは有効である。

**問題 25** 法で定められた建設現場における安全管理について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

1. 複数業者が混在する 50 人の建設現場では、安全管理のために元請業者は統括安全衛生責任者を選任する必要がある。
2. 作業主任者を選任しなければならない作業の中に、型枠支保工の解体は含まれる。
3. 元請業者は現場で新規に入場した作業員には、作業手順を簡単に指示すれば特別な新規入場者教育を行う必要はない。
4. 建設現場では、指示された保護具の着用・使用の義務がある。